

平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	慰霊友好親善事業			担当部局庁	社会・援護局		作成責任者	
事業開始年度	平成3年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	事業課		望月 文明	
会計区分	一般会計			政策・施策名	Ⅶ-3-2 戦没者遺骨収集帰還事業等を行うことにより、戦没者遺族を慰藉すること			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	厚生労働省設置法第4条第1項第105号 厚生労働省組織令第108条			関係する計画、 通知等	平成27年度遺骨収集帰還等派遣費の国庫補助について (平成27年4月20日厚生労働省発社援0420第7号)			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	先の大戦における戦没者の遺児に対する慰藉の一環として、戦没者の遺児が、亡き父の眠る地に赴き心ゆくまで慰霊追悼を行うとともに、現地の人々と戦争犠牲者の遺族という共通の立場で友好親善を図り、相互理解を深める。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	先の大戦における戦没者の遺児が、旧主要戦域を巡拝し、戦没者の慰霊追悼を行うとともに、旧主要戦域の関係者との友好親善のための記念事業(教育施設への学用品等の寄贈、公共施設等の清掃、現地戦争犠牲者との交流会、記念植樹)を行う(定額補助)。							
実施方法	補助							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	272	272	272	351	270	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
	計		272	272	272	351	270	
	執行額		272	272	272	-	-	
執行率(%)		100%	100%	100%	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	平成27年度は12回(うち洋上慰霊1回)での慰霊友好親善事業を着実に実施する。	慰霊友好親善事業実施数	成果実績	回	16	17	17	-
			目標値	回	17	17	17	12
			達成度	%	94%	100%	100%	-
活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	慰霊友好親善事業実施数 ※平成27年度は戦後70周年の節目にあたることから、従来事業(6回)を大規模な洋上慰霊(1回)に組換えて実施	活動実績	回	16	17	17	-	
		当初見込み	回	17	17	17	12	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	X:慰霊友好親善事業の実施に要した経費 Y:活動実績(実施数)		単位当たり コスト	千円	17,000	16,000	16,000	29,250
			計算式	X/Y	272百万円/16回	272百万円/17回	272百万円/17回	351百万円/12回
平成 27 ・ 28 年度 予算 内訳 (単 位: 百万 円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	遺骨収集帰還等派遣費補助金	351	270	洋上慰霊(戦後70周年事業)の終了に伴う減				
計	351	270						

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	・本事業は遺族団体等関係者からの強い要望を受けて創設されたものである。未だ113万柱もの遺骨が帰還していないという現状において、現地関係者と友好親善を図りつつ相手国の慰霊事業への理解を深める本事業のニーズは高い。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	・国で実施要綱を定め、民間団体への補助事業として実施している。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	・海没遺骨や相手国の事情等から遺骨収集帰還ができない地域の戦没者の慰霊や関係遺族の慰藉をするものである。未だ113万柱もの遺骨が帰還していないという現状であり、優先度は高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	・事業の趣旨及び遺族の心情を深く理解し、事業の遂行にあたって誠実に実施できる団体に補助を行うため、公募により選定を行っている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	・参加者の範囲を戦没者遺児に限定するとともに、一定の自己負担を求めるなど、適切に実施されている。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	・事業実施地域の物価上昇などに対応するため、事業計画や経費の見直しを行う等、コスト削減に努めている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業実施にあたり必要なものだけに限定されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	実績は目標を達成している。	
	事業実施にあたって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・事業を効果的に実施するため、事業の趣旨及び遺族の心情を深く理解し、事業の遂行にあたって誠実に実施できる団体を公募により選定して実施している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	・概ね見込み通り実施できている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	事業の趣旨・役割はそれぞれ以下の通りである。 ・慰霊巡拝事業・・・国において遺骨収集帰還事業を実施しているが、未だ海外に多く眠る戦没者を国として慰霊するために、政府慰霊巡拝団を旧戦域に派遣し、戦没者の慰霊を行う。 ・慰霊友好親善事業・・・戦遺児が旧戦域の人々と戦犠牲者の遺族という共通の立場から友好親善を図り、慰霊事業に対する相手国の理解を深めることで、広く戦争犠牲者の慰霊追悼を行い、恒久平和を願う。	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	厚生労働省社会・援護局	745	慰霊巡拝事業		
点検・改善結果	点検結果	本事業は概ね当初見込み通り実施できている。引き続き必要な経費を精査し、適切な慰霊友好親善事業を実施していくこととする。平成23年度より、可能な限り競争的な選定となるよう補助金の交付対象を公募により選定する方式へ改めている。			
	改善の方向性	平成26年度においても、見込み通り実施できている。引き続き必要な経費を精査し、適切に慰霊友好親善事業を実施していくこととする。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	点検結果は妥当であり、かつての戦闘地域の人々と戦争犠牲者の遺族という共通の立場で友好親善を図り、相互理解を深めるために必要な事業であるため、引き続き、必要な予算を確保し、適正な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	-				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	463	平成23年度	421	平成24年度	367
平成25年度	732	平成26年度	730		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

【平成26年度実績額】

厚生労働省
272百万円

【補助金】

A (一財)日本遺族会
272百万円

参加者旅費、現地交流会、
記念事業経費

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位: 百万円)

A.(一財)日本遺族会			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	参加遺族旅費、引率旅費	185			
借料及び損料	車両借上等	39			
消耗品費	教育施設寄贈品、交流会開催、追悼式用品	22			
雑役務費	通訳、添乗員雇上	21			
賃金	賃金職員経費	3			
その他	通信運搬費、印刷製本費	2			
計		272	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)日本遺族会	各戦域関係者との交流会、記念事業の開催	272	-	-